

群 教 セ	G15 - 01
	平 28.260 集
	高 - キャリア

# 平成 28 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社 群馬銀行

長期社会体験研修員 鶴岡 優子

## I 研修内容

### 1 研修先の概要

株式会社群馬銀行は、昭和7年11月に群馬銀行と上州銀行が合併して群馬大同銀行として誕生した。その後昭和30年1月に行名を群馬銀行と改称し現在に至っている。国内150店舗（県内103、県外47）を拠点として、地元地域と深い関わりを持つ地方銀行として発展している。預金残高、貸出金残高は、地方銀行の中では有数の規模となっている。

### 2 研修先での主な研修内容

#### (1) 営業 1・2 課研修（研修場所：本店営業部）

お客様案内係では、来店されたお客様へ各種伝票の記入やATM操作の案内を行った。また、預金後方業務では、端末操作や現金入出金機の操作、各種伝票・帳票整理を行った。公金係では、公共料金や税金の書類の確認、為替係では、端末操作による送金や約束手形の確認、出納係では、現金の搬送や損券の修復、再鑑を行った。実際に小切手や約束手形がどのように扱われているのかを学んだ。

#### (2) 総務課研修（研修場所：本店営業部）

預かり金融資産係では、投資信託や保険販売のお客様対応の同席や資料作成などを行った。

#### (3) 融資課研修（研修場所：本店営業部）

融資課では、主に外国為替係に携わり、窓口で外国通貨の両替に来られたお客様の対応を行った。また、外国送金の伝票作成や端末操作を行った。海外との取引や荷為替がどのように扱われているかを学んだ。

#### (4) 渉外課研修（研修場所：本店営業部）

渉外課では、個人や企業等の取引先へ行員と帯同訪問や取引先に関する資料や郵便物等の作成を行った。幅広い知識やリアルタイムの情報が必要であることを学んだ。

#### (5) 行内研修【階層別研修・業務別研修】（研修場所：研修所等）

階層別研修として、入行時研修、新任代理研修、新任次課長・役研修、新任係長研修、中堅行員研修、支店長代理マネジメント研修、女性リーダー育成研修等、様々な研修に参加した。

業務別研修として、預かり資産環境認識研修、渉外初任者研修、個人ローン初任者研修、個人・法人営業初級研修、財務基礎研修、融資基礎研修、審査基礎研修等、様々な研修に参加した。

#### (6) 行内研修【その他】（研修場所：研修所等）

若手行員を育てていくための体系的なプログラムに参加し、自衛隊体験入隊、Vリーグの運営体験、金融教育体験、坐禅体験、ディズニーアカデミーに参加した。

### 3 キャリア教育実践

#### (1) キャリア教育資料について

行内研修では隣の人やグループで話し合う場面や発表する機会も多く、コミュニケーションが意識されている。キャリア教育資料は、多くの行内研修に参加する中で、どの研修でも大切に感じた「コミュニケーション能力の向上」を中心に作成した。

また、1年目から4年目までの若手行員に「コミュニケーションについて（身に付けておきたいこと）」や「高校生へのメッセージ」についてインタビューをして、掲載した。

## (2) 実践の概要（県立新田暁高等学校）

### ①授業実践

単元名 「小切手と約束手形について」（商業科 簿記）

対象 総合学科 情報ビジネス系列 第1学年 18名

銀行業務の体験や行内研修をもとに、「小切手と約束手形について」の講義を行った。始めに、銀行業務や行内研修について画像などを提示しながら説明した。次に、「なぜ小切手を使うのか？」や「小切手と約束手形の違いは？」などを2人で話し合うペアワークを取り入れた授業を展開した。

### ②校内研修

「群馬銀行における人材育成について～コミュニケーション～」をテーマにして、研修内容の紹介や本店営業部での研修を通じて感じた学校現場との違いを紹介した。特にコミュニケーションについて取り上げ、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの説明をして、身だしなみ等もコミュニケーションの一部であることを伝えた。また、ロジカルシンキングの研修で体験した「私のおすすめを三つの理由で紹介」などを実習として取り入れた。

## II 研修成果

### 1 行内研修について

約80日間の多種多様な研修に参加した。階層別研修では、毎回、コンプライアンスの講義があり「銀行は信用が第一」ということを実感した。この研修で学んだことを進路指導や生徒指導で生かしていきたい。業務別研修で学んだ「預かり資産環境認識」や「財務基礎」の内容は、商業の教科に通じることが多くあるので、教科指導に生かしていきたい。

### 2 銀行の業務について

銀行業務全般に携わることができた。メンター制度による若手育成や、OJT（職場内研修）が確立されており、学校における若手育成等にも生かすことができると感じた。行員同士で、その日の新聞の記事や自分の意見を紹介し、業務につなげている姿を見て、幅広い知識やリアルタイムの情報が求められていることを感じた。生徒に新聞記事を紹介させることや、教師が授業の中にリアルタイムの情報を取り入れていく事の重要性を感じた。また、銀行では「銀行は信用が第一」のため様々な取組が行われていることを実感した。学校でも「信用が第一」を意識していきたい。

### 3 キャリア教育実践について

授業実践では、銀行で体験したことを簿記に関連させて伝えることで、簿記やビジネスに興味を持たせることができた。また、「なぜ、小切手を使うのか」を考えさせる演習を通して、数字を正確に書く重要性を理解させることができた。今回初めて簿記の授業でペアワークを取り入れた。生徒は、予想以上に真剣に話し合いをして積極的に発言をすることができた。場面によって、ペアワークやグループワークなど生徒同士のやり取りを授業に取り入れることが効果的だと感じた。

## III まとめ

銀行業務に携わることで、教科で教えている内容について、実際に目にすることができ、小切手や約束手形、荷為替が実社会でどのように扱われているのかを知ることができた。また、行内研修では、新たなことを知ることに喜びを感じながら研修に取り組むことができた。ビジネスマナーやコミュニケーションなどは、今後の教科指導で生かしていきたい。

この研修を通して、多くの方々に出会い、学校現場だけでは体験できない貴重な経験や多くのことを学ばせていただいた。研修で学んだことを、生徒の指導や学校組織の活性化に生かしていきたい。

（担当指導主事 大野 慎一郎）